

ルカ 1:1-4、4:14-21

1:1-2 わたしたちの間で実現した事柄について、最初から目撃して御言葉のために働いた人々がわたしたちに伝えたとおりに、物語を書き連ねようと、多くの人々が既に手を着けています。

1:3 そこで、敬愛するテオフィロさま、わたしもすべての事を初めから詳しく調べていますので、順序正しく書いてあなたに献呈するのがよいと思いました。

1:4 お受けになった教えが確実なものであることを、よく分かっていただきたいのであります。

4:14 (さて) イエスは“霊”の力に満ちてガリラヤに帰られた。その評判が周りの地方一帯に広まった。

4:15 イエスは諸会堂で教え、皆から尊敬を受けられた。

4:16 イエスはお育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしてお立ちになった。

4:17 預言者イザヤの巻物が渡され、お開きになると、次のように書いてある個所が目にとまった。

4:18 「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、／主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、／捕らわれている人に解放を、／目の見えない人に視力の回復を告げ、／圧迫されている人を自由にし、

4:19 主の恵みの年を告げるためである。」

4:20 イエスは巻物を巻き、係の者に返して席に座られた。
会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた。

4:21 そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。

今年の日曜日の礼拝ではルカの福音を中心に読み進めていきます。

<ルカの福音書の特徴>

1) 今日

イエス誕生時の天使の言葉 (2:11)

きょう、あなたがたのために救い主がお生まれになった

十字架上のイエスのみことば (23:43)

きょう、あなたはわたしと一緒にパラダイスにいる

ルカ福音書のはじめとおわりから引用しましたが、「きょう」の事柄として書かれているところに特徴があるようです。

本日の箇所でも「今日、実現した」とあります。

ルカ福音書に記されている出来事は過去におきたことだけど、いま現在でもおきている事柄でもあるのだということをルカは強調したいので「今日」という表現をしているのでしょう。

2) 序文がついているのはルカだけ。

これはギリシア風の書き出しです。ユダヤ人以外にも広く読んでもらうための工夫ではないでしょうか。またテオフィロという人々に献呈されていますが、テオフィロとは神に愛された人の意味もあります、ルカは外国生まれで直接イエスに会ったことはないようです。これらのことからルカ福音書はユダヤ人向けではなく、外国人（聖書のことばでいえば異邦人）むけに記された書物だとおもわれます。

この二つの特徴（「きょう」と「外国人」）から、いま21世紀に生きている日本人であるわたしたちはルカが読んでもらいたい読者のイメージにあてはまるようです。

ートリビアー

4世紀、一説には2世紀のものとされる文書『ルカによる福音書への反マルキオンの序文』に「ルカはシリアのアンティオキアの出身で、シリア人、職業は医者」とする記述が現れる。この文書は、また、ルカは独身で、84歳でなくなったと伝える。いくつかの写本はルカがなくなったのはボイオティアのテーバイであると付け加えている。

3) 二部作となっている。

福音書に続いてルカは「使徒言行録」を書いています。この続編ともいえる「使徒言行録」のおかげでイエス昇天後の様子をわたしたちは詳しく知ることができます。

<本日の福音>

ユダヤ教の礼拝堂にイエス本人がきて朗読と説教をしました。

その内容は

自分が主の霊により油を注がれて派遣されたものであり、その使命とは、貧しい人に福音を告げ、とらわれた人に自由を、盲人に、盲目の克服をもたらすことにある、と自己を啓示、宣言された。

第一朗読で読んだエズラによる律法公布の時は喝采で迎えられました。が、イエスの宣言、マニフェストに対するユダヤ人の反応はとまどいであり、拒絶でした。

波乱の展開が予想される出だしですが、これから毎週ルカの福音からイエスがいかにして福音を説いていったのか、またどのような行動で民衆に訴えていったのかを、いっしょに読み進めていきましょう。